

1. 皆さん、こんにちは。私はアディ・ギンゴールドと申します。私はリゼット・マルチネスと申します。今日は、大学生の恋愛事情に関する日米比較の研究について発表したいと思います。

2. これが研究発表の概要です。

3. なぜ私がこの課題を選んだかという、日本で留学していた時に取った授業の中で、日本社会における女性の役割について学び、その時初めて合コンについて知りました。その時から、日米間で恋愛事情に対する認識に違いがある事に気づき、日本とアメリカ独自の恋愛事情についてもっと深く知りたいと思ったからです。

4. 私の場合は、今国際恋愛をされていて、日本で留学していた時に、文化の違いが私たちの関係にどう影響するかよく聞かれ、もっとこのことに認識を深めたかったからです。また、恋愛中に文化の違いによって生じる摩擦をできるだけ避けるため、日本とアメリカの恋愛事情の文化についてもっと深く知りたいと思ったからです。

5. 私達の研究質問は次の3つです。1、日本とアメリカの大学生が恋愛をする上で、それぞれどのような認識の違いがパートナー間（かん）にあるか。そして、その認識の違いがどのように彼らに影響しているか。2、日本人とアメリカ人の大学生の間で、恋愛と勉強のバラ

ンスについて、どのような考えの違いがあるのか。3、恋愛関係を続けようとする要因は何か、の以上です。

6. それでは始めに、この研究の背景として、これらの項目について順をおって説明します。まずは、恋愛の価値観と恋愛の6種類について。次に、男女間の恋愛関係や日米における恋愛関係に対する解釈について。最後に、社会的影響や学校と恋愛のバランスについて紹介します。

7. 外部と内部の価値観にも色々な見方があります。特に、外部の価値観には許される行為とするべきではない行為の基準やその価値観の実用的な応用があります。例えば、女性が性的に活発であれば否定的に見られます。そして、内部の価値観は、個人の体験や日常行動によります。例えば、セックスに興味がない女性も否定的で堅物の人とみなされる傾向にあります。

8. 恋愛には3つの見解があります。それは相手に対する感情や欲求のあり方、お互いが相手に望み期待する事柄、そして長期的な恋愛関係なのか短期的な恋愛関係かです。それらはさらに次の6つのタイプにわけられます。

9. これは恋愛の相関図です。エロス（美への愛）・ルダス（遊びの愛）・ストルゲ（友愛的な愛）の三つのタイプから成ります。さらに、エロスとルダスを混ぜると、熱狂的な愛・マニアになり、エロスとストルゲを合わせると献身的な愛・アガペーとなり、ルダスとストルゲをあわせると実利的な愛・プラグマという複合型のタイプが生まれます。

10. どのように恋愛関係が始まるかというのは、アメリカと日本とで異なります。日本の場合、合コン、つまり異なる組織、サークルなどに属しグループでお見合いをしたり、告白、つまり心の中に秘めている想いを相手に打ち明けて関係がはじまります。アメリカの場合、一度だけの関係を持つフックアップや、同じ時期に二人以上の人とデートに行くカジュアルなデート等で関係が始まるようです。

11. 真剣な交際に関しては日本もアメリカも同じで、家族に交際相手を紹介したり、同棲生活をしたり、恋人関係になることから始まります。

12. では、ここで「好き」と「あいしている」の違いについて説明します。日本人は「好き」という言葉をよく使います。例えば「あなたのことが好きです」などです。アメリカ人は「愛している」という表

現を使いますが、日本人が「愛している」という言葉を使うのは恋人にだけです。

13. 次に、日本には内、外という概念があり、よく引用されるのは「甘え」という概念です。それは周りの人に好かれて、人に依存したり、人の好意をあてにする気持ちのことです。

14. アメリカの場合は、もし相手との関係が終わったとしても、面倒な煩わしい思い、未練、後悔もなく終われる淡泊な関係を好みます。その反面、アメリカンドリームとして知られているように多くのアメリカ人は子供、パートナー、自分の家を守り常に幸せな生活を目標としています。

15. では、学校と恋愛のバランスを学生はどうとらえているのでしょうか。アンサリによると、日本の場合は、16歳～24歳の女性の46%は性的接触を好みませんが、同い年の男性の25%も同じように考えているようです。しかし、現実では調査対象者の60.8%の人は恋愛関係に興味がありますし、調査対象者の男性86.3%と女性89.4%はいつか結婚する考えです。また交際していない人の37.6%は恋人が欲しくないということもわかっています。

16.アメリカの場合、フィッセルによると、学業と就職活動に集中するために、大学生は短期でカジュアルな恋愛を好んでいるとされています。StatisticBrainによると、現実には32.5%の大学生の恋愛関係は遠距離恋愛。USA Todayによると、大学4年生の25%は未経験者、そしてIndependent Women's Forumによると、大学4年生の3割は交際した経験が2回以下であることがわかりました。

17. では、次に私達が行ったアンケート調査の研究結果についてお話し致します。この調査には160人の大学生に参加してもらいました。内訳は日本人80人、アメリカ人80人です。グーグルフォームを使ったオンラインアンケートを通してデータを集めました。

18. それでは研究質問1についての結果を発表いたします。

19. まず、回答者に恋愛/学校/そしてアルバイトの重要性を評価してもらいました。日本人の学生もアメリカ人の学生も勉学を最も重要だと考えていますが、日本人はアルバイトよりも恋愛の方を、アメリカ人は恋愛よりもアルバイトの方を重要視しているようです。

20. そして、「大学在学中に、何人の人と交際したか」という質問に関しては、日本人もアメリカ人も交際した人数には大きな違いはな

かったのですが、驚いたことに交際したことがないと答えた割合は日本人の方が多かったです。

21/22. 一般的に大学生の恋愛が続く期間と実際に恋愛関係がどれくらい続いたのかを質問したところ、日本人の大学生が長期的関係を好むのに対し、アメリカ人の大学生はより短期的な関係を好んでいることが分かりました。

23. ここで研究質問1の結果をまとめたいと思います。両学生も恋愛より学業を優先しますが、アメリカ人は日本人と比べて恋愛を優先していないようです。恋愛関係が続く期間を自分たちの経験をもとに予想して答えてもらうと、アメリカ人は短期間な恋愛を、日本人は長期間な恋愛をしているようです。交際したことの無い日本人の割合は全体の3分の1でしたが、アメリカ人と大差はありませんでした。

24. 次は研究質問2です。

25. 「一般的に、恋人に週に何回くらい会うべきだと思うか」という質問に対して、「最低1回」と答えた日本人が約5割に対し、アメリカ人の約5割が「2～3回」と答え、アメリカ人の方が恋人に会うべきだと思う回数が多かったです。

26. 「週に何回くらい恋人に連絡するべきだと思うか」という質問には、アメリカ人は日本人より毎日恋人に連絡するべきだという割合が高かったです。

27. 「どのタイミングで相手に告白をしますか。」という質問に関しては、日本人の方が早めに（2～3回デートした後）告白する傾向にあります。

28. 最後に、回答者にブラインドデートに行くこと、カジュアルなデート、セフレになること、一度だけの関係を持つことに対して、それぞれどのくらい抵抗があるのかを評価してもらいました。日本人に比べ、アメリカ人はこれらの概念に抵抗がないと答えた人が多かったです。

29. ここで研究質問2をまとめます。アメリカ人の方が恋人に、より頻繁に会うべきだと答えました。さらに、アメリカ人の方が交際相手とより多く連絡をとる傾向にあります。日本人はアメリカ人と比べてやや早い段階での告白を好みますが、先行文献で述べられている告白の段階よりも遅いことが分かりました。告白は日本の価値観ですが、告白は必要ないと答えた日本人の学生はアメリカ人より多かったです。

30. 最後に研究質問3の結果を発表します。

31. まず、「友人が良く思っていない人と恋愛関係を続けたくはない。」という状況についてどう思うかという質問に対して、日米どちらの大学生も同じような反応を示しましたが、日本の大学生は(アメリカの大学生に比べ、)わずかですが、友達の意見をより優先しているようです。

32. アメリカ人の方が日本人よりも、(家などで一緒に過ごすだけでなく、)デートに出かけることが健全な関係にとって重要であると感じていましたが、日米どちらの学生もそのように思っているようです。

33. 「恋愛関係を維持しようとする要因は何か」という質問に対して、一般論に反して、真剣な交際を続けるために必要なこととして、日本人の最も回答数が多かった要因は「親密な関係」だったのに対し、アメリカ人は「共通の趣味」を挙げました。

34. 次に、回答者に真剣に付き合えるパートナーを見つけられる場所はどこかについて回答してもらいました。アメリカ人は様々な場所で恋愛関係が始まる可能性があるかと答えましたが、日本人は特にアルバ



イト先や学校でその可能性があると思っているようです。しかし、日本人はオンラインでの出会いに対して非常に否定的です。

35. ここで研究質問3をまとめます。両学生とも共通の趣味、外見、そして親密な関係を恋愛関係を維持するために必要な要因として考えているようですが、日本人はアメリカ人より、外見と親密な関係を重要視しました。どちらの学生も真剣に付き合える交際相手を学校、または友人を通じて知り合うことを好みますが、日本人はアルバイト先を一番出会う可能性が高い場所であると答えました。さらに、日本人はオンラインデートやブラインドデートに抵抗があるのに対し、アメリカ人はあまり同僚と付き合わないと回答しました。

36. これらの研究の結論と考察として、研究結果より、日米の大学生間において、付き合い始めるときに考える目標の違いが見られました。アメリカ人はパートナーを見つけることに焦点を置くのに対し、日本人は長期的な関係を持つことに焦点を置いているようでした。また、日本人は出会いに対して保守的であるようです。アンケートの結果より、日本人はオンラインやカジュアルデートに対して否定的な反応を示し、告白のタイミングがアメリカ人より早い傾向があることがわかりました。さらに、日本人は恋愛関係を維持する理由として親密

な関係を選びました。このことより、日本人は長期的かつ真剣な交際をしたいと考えているのかもしれませんが。

37. 今回の研究において、気づいた難しい点には、英語と日本語で、相互に対応する言葉がなく、特によく知られた文化の概念をはっきり翻訳することが出来ませんでした。例えば、「好き」と「愛している」や「真剣な関係」と「結婚への意識」の認識が文化によって違います。そして、日本人に関しては日本全国の学生の回答者が得られましたが、アメリカ人はカリフォルニア州の学生がほとんどで、多くの日本人回答者は海外経験があり、それが彼らの考え方に影響を及ぼしているかもしれないと思いました。

38. 将来の研究課題として、私たちの研究を2つにわけたいと思います。1つ目は、留学経験が大学生の恋愛関係に対する考え方にどのような影響を及ぼすのか。2つ目は、結婚を目的としている恋愛関係において、行動や態度、考え方に日米の大学生間でどのような違いがあるのかについて研究を行いたいと思います。

39-41. 参考文献は以下の通りです。

42. 最後に、ご指導くださった先生方と支えてくださった家族や友人の皆様に感謝をいたします。ご清聴ありがとうございました。

